

全校集会講話

「東日本大震災5周年によせて」

卒業式の予行、お疲れさまでした。みなさんの気持ちが一つになって大変素晴らしい予行が出来たと思います。頑張ったみなさんに感謝します。いよいよ来週が本番です。みんなで作り上げる卒業式が最高のものになるように期待しています。

さてここで少しだけ時間をもらって話をさせて下さい。みなさん、今日3月11日が何の日かはもちろん知っていますよね。そうです。5年前の今日、東北地方を中心とした「東日本大震災」が発生しました。2011年3月11日午後2時46分、宮城県沖を震源としてマグニチュード9という観測史上最大規模の大地震が発生しました。この地震により巨大な津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋岸に壊滅的な被害をもたらしました。そしてその後に福島県の東京電力福島第一原子力発電所で放射性物質の漏えいの重大事故が発生しました。多くの方が命を落としたり、行方不明になったり、故郷を離れて避難生活を送らざるを得なくなりました。地震が発生した時、みなさんは8歳・9歳・10歳ですから小学校の低学年・中学年だったはずですが、地震発生当日、朝霞市でも震度5弱を記録しましたから、みなさんもきっと怖い思いをしたのをおぼえていることでしょう。その後のニュースや新聞で津波や原発事故の様

子が繰り返し報道されたのを記憶している人も多いと思います。

あの日から5年という月日が流れました。被災地の復興もだいぶ進んできました。しかし今日現在で死亡された方1万5894人、いまだに行方不明の方2561人、避難生活を余儀なくされている方およそ17万4千人がいらっしゃり、東日本大震災は決して過去のものでなく今もその被害が続いているのだということを私たちは忘れてはなりません。今日、全校生徒がそろっているこの時間を使わせてもらって今一度大震災で被害にあった人たちに思いをはせる機会を共有したいと思います。

実はこの会のために震災当時の映像を3分ほどで皆さんにお見せしようと準備をしました。しかしその映像を先生方で見てあまりに悲惨でショッキングな内容でしたのでみなさんに見せるのはやめにしました。でもみなさんにわかってほしい。それくらい悲惨で悲しいことがあったこと、この震災で大切な家族や友人、住む家を失った人がたくさんいたこと、そして今もその悲しみは消えてはいないのだということ・・・

私たちは自然の力の前では本当に無力です。いくら頑張っても死んだ人は帰ってこないし、震災の記憶が消えるわけではありません。

でも一つだけ私たちにできることがあります。それは「絶対に忘れない」ということです。私たちはあの日を忘れてはいけません。私たちが被災地の人たちに思いをはせ、あの日のことを忘れずに心にとどめて行くこと、そして今、

生きていることの素晴らしさや命の大切さをかみしめることこれが続けていくことが真の意味での復興に繋がるのだと私は思います。

この後みんなで黙とうを行います。ぜひ被災地の人に思いをはせ、私たちが今幸せな学校生活を送ることが出来ていることに感謝してほしいとおもいます。

終わります。

平成27年度 第69回卒業証書授与式 式辞

春の光が満ち渡り、木々も芽吹き始めたこの佳き日に、朝霞市教育委員会委員長 鈴木 泰代様、朝霞市議会議長 野本 一幸様 朝霞市会計管理者 田中 幸男様を始め多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、またかくも多くの保護者の皆様にご列席をいただき、平成二十七年度本校第六十九回卒業証書授与式が挙行できますことに心より感謝申し上げます。式典に際しまして一言申し上げます。

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。只今三百十二名のみなさん一人ひとりに卒業証書をお渡ししました。今みなさんが手にしている一枚の証書は小学校と合わせて九年度の義務教育が修了した証です。その一枚には、みなさんがランドセルを背負って初めて小学校の門をくぐってからこれまでの9年度の生活の思い出と友達や支えてくれたご両親、先生の思いや願いが詰まっています。どうかその重みを感じて下さい。

さて三年生のみなさん、君たちとは二年間の付き合いでした。一年目、みなさんが二年生の時は、少し学校が落ち着かない状態でした。みなさんの中にも授業中落ち着かなかったり、物を壊したり、心ない行為をする人もいました。私は「変わる」をキーワードに当たり前のことが出来る学校にしようと言い続けました。そして二年目の今年はまさに学校が「変わった」年でした。落ち着いた生活が出来ようになり、学習や部活動に熱心に取り組む学校に生まれ変わったその原動力はみなさんたち「緑学年」の三年生です。自分たちの力で学校を良くしようという思いや意気込みを感じられた一年間でした。学校行事や部活動もそうですが、平凡な普段の生活で時間を守ったり、けじめをつけたり、声を掛け合ったりして頑張っ

いた三年生がいたからこそ今の朝霞一中があるのだと思います。私はみなさんにいつも学校生活は「点」ではなく「線」であると言いつけました。それは当たり前前を当たり前前に続けることの大切さに気付いてほしかったからです。そしてそれを続けたみなさんを本当に誇りに思います。それでは、巣立ちゆくみなさんに私から最後の授業をしたいと思います。この授業は同時に後ろにいる1・2年生に向けても行うものでもありますのでよく聞いてください。最後の授業のテーマは「挑戦し続けることでしか成長は得られない」というものです。今の時代は「変化の時代」と言われています。私たちを取り巻く社会は確実にそして大きく変化しています。その例を上げれば、今から二十年前にはインターネットや携帯電話はほとんど普及していませんでした。今から十年前にはスマホという言葉は存在していませんでした。これからの十年、二十年はもっと変化の激しい時代になっていくでしょう。その中で生きていくみなさんには、予想も出来ない困難が待っていることでしょう。しかし変化のないところにチャンスはありません。大きな変化が予想できるならそこには大きなチャンスがあるはずです。みなさんには、これからの人生において常に前向きに成長を求め続ける人であってほしいと願っています。

では具体的に「成長」するためにはどうしたら良いのでしょうか。その答えは「挑戦し続けること」だと思います。みなさんが大好きなディズニーランドを作ったウォルト・ディズニーは「完成とは変化をやめることである。だからディズニーランドは永遠に完成しない。この世界に創造力が残っている限り成長し続ける」と言ったそうです。有名な喜劇王チャップリンは

たくさんのお優れた映画を世に残しましたが、「あなたの映画の中で最高傑作は？」と聞かれると必ず「Next One」すなわち次回作だと答えました。

自動車会社HONDAの創業者本田宗一郎は「チャレンジをして失敗することを恐れるよりも、何もしないことを恐れろ」と言ったそうです。

以前にみなさんに「学校の階段は上りの一方通行だ」と話したことがありましたね。あれは「人生の階段は上りの一方通行だ」と言った方がいいかもしれません。これからの人生で楽しいこと、苦しいこと、うれしいこと、つらいこと、いろいろあると思います。でもみなさんの目の前には無限の未来があり、上りの階段が果てしなく続いています。前向きに挑戦し続けることで大きく成長していったらいいと願っています。

保護者の皆様に申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。大きく成長されたお子様の晴れ姿をご覧になり、感慨もひとしおのことと存じます。私ども教職員一同、皆様からお預かりした大切なお子様の健やかな成長を目指して、三年間全力で教育活動に取り組んでまいりました。保護者の皆様には、これまで本校の教育活動に深いご理解と温かなご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。4月から彼らが船出する新しい航海に吹く風は、これまでよりも厳しいものになることでしょう。本日皆様のお手元にお子様をお返ししますが、どうか小さな変化も見逃さず、これからも温かく見守っていただきたいと存じます。

最後になりましたが、ご多用の中ご臨席を賜り、卒業生の門出を盛り上げていただいております朝霞市教育委員会委員長鈴木泰代様を始めとするご来賓の皆様が高い席から誠に恐縮ではございますが、厚く御礼申し上げます。今後とも地域の中で信頼される学校づくりに教職員一同力を合

わせて邁進してまいりますので皆様の一層のご指導ご支援をお願い申し上げます。

卒業生のみなさんの前途に幸多からんことを祈念いたしまして、式辞といたします。

平成二十八年三月十五日

朝霞市立朝霞第一中学校 校長 二見 隆久

学年末保護者会 あいさつ

本日はご多用の中、ご来校いただきましてありがとうございます。年度末に当たり一言お話をさせていただきます。

15日に本年度の卒業式が執り行われまして、312名の卒業生を無事送り出すことができました。卒業した3年生は今年度、先頭に立って学校を良くしようと頑張ってくれました。その後ろ姿を見た1・2年生も日々の生活をしっかりと過ごそうという意欲が見られました。卒業式は3時間近い長い時間でしたが、卒業生も在校生も本当に立派な態度で臨み、感動的な式になりました。

さてこれまでも繰り返しお伝えしたように平成27年度、朝霞第一中学校は良い意味で大きく変わりました。当初は、私ども教職員も生徒達の変容に驚く日々でしたが、それを認め、誉め、励ましながら1年間を過ごした結果、生徒達の変化を実感し、自信を持って生活できるようになりました。生徒や保護者の皆様から頂戴した学校改善アンケートの結果も公表しましたが、昨年度と比べてプラス評価をいただいた方の割合が大きく増えて、その変化を実感いただけたのではないかと考えております。

私は4月の学校だよりでこの1年間を通して「耕した大地に生徒が活躍する様々な種や苗を植えて新たな一步を踏み出す年にする」とお約束しました。

この1年、委員会活動や部活動そして学校行事でこれまで以上に活躍する生徒達の姿を見て、蒔いた種や植えて苗木が芽を出し成長したことを実感していま

す。私ども学校が行う教育活動も保護者の皆様の子育ても、種をまいて一生懸命慈しんで育てると言う意味では同じだと思います。花や木の成長に豊かな土と水、日の光が必要なように子供たちの成長には先ほども言いましたが認めてあげること、誉めてあげること、励ましてあげることが大事です。

最近の報道でご存知のように広島の中学生在が過った進路指導の結果、自ら命を絶つという、あってはならない痛ましい事案が発生しました。別人の誤った情報によって処理されたことはもちろんですが、そもそも1年生の時の万引きを理由に校長推薦がされないなどという仕組みだったと聞いて唖然としました。

たった1度の過ちで生徒のチャンスを絶ってしまうこと自体、教育に携わる者としてあり得ないと思います。先ほど言った認め、誉め、励ますこととは正反対の行為です。子どもたちは失敗しながら成長するものです。間違えた時に手を差し伸べ、正しい方向に導くこと、それを契機に立ち直れば失敗も貴重な体験として見守ること・・・教師や親が子供を信じられずにレッテルを貼るだけなどということはあってはなりません。私は、例え何度裏切られようと愚直に生徒の変容を信じる大人でありたいと思いますし、本校の教職員もみな同じ思いで子供たちに接しています。そしてそういう姿勢で子供たちに寄り添ってきたからこそ朝霞一中は変わることが出来たのだと自負しています。

子供たちはこの3月でそれぞれの学年の課程を修了します。3月31日と4月1日では一日しか違いはありませんが、年度が変わりそれぞれ進級します。そ

してそれぞれがまた新たな階段を登りはじめます。私どもは、その一步一步を
また見守り共に歩んでいきたいと考えております。

今年1年、朝霞第一中学校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがと
うございました。来年度も保護者の皆様の更なるご支援をお願いいたしまして
あいさつとさせていただきます。